

研究・調査報告書

報告書番号	担当
312	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
The Incidence of Metabolic Syndrome and Associated Lifestyle Factors in a Worksite Male Population 一職域男性集団におけるメタボリックシンドロームの発症率および関連する生活習慣因子	
執筆者	
大塚俊昭, 川田智之, 矢内美雪, 北川裕子, 菅裕彦	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
産業衛生学雑誌 Vol.53 No.3 Page.78-86 (2011)	
キーワード	
メタボリックシンドローム、生活習慣	
要旨	
<p>筆者らは、一職域男性集団におけるメタボリックシンドローム (MetS) の発症率およびメタボリックシンドローム発症に関連する生活習慣因子の検討を行った。対象は精密機器開発事業所における 2005 年度定期健診を受診し、MetS の診断に非該当であった男性社員 948 名 (平均年齢 44 歳) である。対象者の 2006-2009 年度の定期健診データを追跡し、MetS 新規発症の有無を調査した。2005 年度定期健診から、対象集団を腹部肥満の有無とその他の MetS 構成因子 (血圧高値、脂質代謝異常、空腹時血糖高値) 保有数の組合せで分類、生活習慣因子 (食事内容、喫煙、睡眠、運動、飲酒) の相違による MetS 発症率を比較した。平均 3.7 年の追跡において、76 人に MetS 新規発症を認めた。腹部肥満を認めずその他の構成因子を 2 つ以上保有する群で最も高い発症率 (37.9%) を示し、これに腹部肥満を認めその他の構成因子を 1 つ保有する群が続いた (24.6%)。年齢で調整したコックス比例ハザードモデルでは、「腹部肥満の保有」および「その他の構成因子数の 1 増加」でともに MetS 発症に対する有意なハザード比の上昇を示した (5.23 及び 4.79、ともに $p<0.001$)。同様に、睡眠時間 5 時間以下、現在喫煙、及びエタノール摂取量 300g/週以上が MetS 発症に対する有意なハザード比の上昇を示した。</p>	